# 「楽しむ、遊ぶ、そして生活を創る」

渡辺　崇史(なごや福祉用具プラザ/リハビリテーションエンジニア)

**********

## 1.はじめに

私たちの生活には、必要とされる環境、空間、人、‘もの’が存在し、うまく活用することで、豊かな生活をすごすことができます。福祉用具(Technical Aid)や支援技術(Assistive Technology)は、障害を持つ人にとって、生活を豊かにするための‘もの’であり、道具ですから、大いに活用すべきです。

それは、生命を維持すること、日常生活をおくること、趣味やスポーツをすること、働くことなど、自分が自分らしく生きるための様々な社会活動の中で、生かされていかなければならないことだと思います。

## 2.スポーツをする(ボッチャ用補助具の開発)

ボッチャは、重い障害があっても補助具を使って参加できるスポーツです。でも、「私には．．．あなたにはこのスポーツはできない」という思い込みはありませんか？できるようにするために、用具を工夫したり、作ったりしたことはありますか？ぜひ、考えて、実行してみてください。

現在、ランプス(ボールをころがすための勾配具)をころがしたい方向へ容易に操作できる装置や、競技者自身がスイッチ操作等によって、ランプスを動かす機器の開発を、競技者とともに取り組んでいます。

## 3.ゲームで遊ぶ(障害にあわせたスイッチ制御回路の開発)

本人:「自分でゲームをやりたいなあ。いつも誰かがやっているのを見ているだけだから。」

あなた:「スイッチがたくさんあるから、無理だよ。別にゲームができなくても、いいじゃない。」

ゲームをやりたい/やらないは、それを体験できる状況があって、初めて選択できることです。選択できる状況にない時には、あきらめるしかないのでしょうか？

ゲームが操作できれば、自分のやれることが1つ増えるわけです。ゲームができるなら、あれもこれもできるかもしれない。つまりそれは、「ゲームから始まる社会参加」なのです。

## 4.おわりに

私たちの生活は‘もの’を道具として利用し、生活を豊かに便利なものとしています。まったく道具を使わないという生活は考えられません。できないのは、使いやすい道具や機器がない、使い方がわからないという思い込みなのではないでしょうか？

生きていくための道具として、自分に合った‘もの’を獲得し、活用することによって、今までの環境、空間、人との関わりも変化します。つまり、生活を創っていくことになるのです。